

## 平成 29 年度全国剣道指導者研修会（九州ブロック）



動機づけ「手ぬぐいゲーム」の様子

平成 29 年度全国剣道指導者研修会九州ブロック（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、主管＝大分県学校剣道連盟）は 2 月 17・18 日の 2 日間、大分県別府市の別府市民体育館で、中学校保健体育科教員 17 名を含む 71 名が参加して行われた。本事業は平成 24 年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向けて、剣道の授業が効果的に展開されるよう、全国 9 ブロックのうち、毎年 5 ブロックで開催されている。今回は今年度最後の研修会となった。

### □1 日目（2 月 17 日）

開講式では、はじめに青木元樹日本武道館振興部振興課主任が「日本武道協協会が昨年 5 月に設立 40 周年を迎え、記念事業として『中学校武道必修化指導書』を刊行し、全国 1 万余校の中学校・都道府県市区町村教育委員会に無償配布しました。研修会は指導書の内容に基づいて行われますので、ぜひ活用していただきたい」と挨拶。

続いて、佐藤義則全日本学校剣道連盟常任理事が挨拶に立ち「この研修会を開催して 7 年目を迎え、今回で 37 県目になります。本研修会は事前に指導法を研究し、全国で実施されている指導例も紹介します。指

導法そのものを持ち帰るのではなく、それぞれの生徒、先生に合ったものに味付けをして、研修会を実のあるものにしていただきたい」と述べた。

主管県からは阿部昭一大分県剣道連盟専務理事が「なぜ今、武道が必修化されているのかを改めて考えて、剣道の良い文化を正しく後世につなげていただきたい。この研修会をそれぞれの指導に役立てていただきたい」と歓迎の言葉を述べた。

開講式終了後、岩脇司講師より、学習指導要領改訂について講義が行われた。新学習指導要領の変更点をわかりやすく説明し、武道種目の採用方法についても詳しく解説された。

次に、有田祐二講師が安全指導の講義を行った。部活動における死亡事故・重度の障害事故の発生率から、剣道は安全であることが示され、安全な授業を行うためにも竹刀・防具の点検、安全管理が重要であると述べた。

次に、佐藤講師より体罰・暴力によらない指導についての講義が行われた。体罰をするということは、教員として指導力がないことを示し、教育のプロとして恥ずべき行為である。また、褒める指導について、相手のことを考えた指導を心がけることが大事であり、言葉にとげがないか、ぬくもりのある言葉かけができ

ているかなどに気を配り、剣道の<sup>そくいん</sup>惻隱の情（思いやり）を大事にしてほしい、と述べた。

その後、<sup>ひぐま</sup>日隈 健人中津市立中津中学校教諭による剣道授業実践例の発表が行われた。同校がある中津市は、剣豪島田虎之助が生まれ育った場所であること、中津市では剣道防具一式がレンタルできることなどから、剣道授業を行っている。このレンタル防具は面と垂れの<sup>ひも</sup>紐部分がマジックテープになっており、簡単に留められるようになっている。簡易な防具になっているが、それでも防具の付け方、片付け方を指導するのに1時間はかかってしまうため、制限時間を設け、早く装着ができた生徒や見学者が、時間のかかる生徒の手伝いをするなど工夫をしている。防具をつけてからは、気を付けるポイントを「大きな声」「打突後のすり足」「残心」の3つに絞り、実際に打ち合いをさせて、相手と戦う楽しさや、打つ・打たれる感覚を身に付けさせる指導法が紹介された。

午後は、軽米満世講師が剣道の歴史と特性について説明を行った後、山神眞一講師より動機づけの実技が行われた。楽しむだけではなく、剣道につながる動きであることを意識しながら行うことが強調された。その後、藤田弘美講師により新聞紙切り、ボール打ちが実践された。新聞紙切りでは、床を傷つけないように床に面を置くことや、周りに竹刀が当たらないように十分注意を向けさせる安全指導があった。

さらに、軽米講師による武道的素養を培う動きづくりが行われ、すり足や踏み込み足の練習では、ウォーミングアップにもなるため、運動量の確保にもつながるとの説明があった。

次に、木刀による剣道基本技稽古法（以下、木刀基本）に移り、宮原昇治講師より、防具がなくてもでき

るのが特徴であり、パイプとスポンジで作られた簡易竹刀や、「いたく竹刀」などの代用品も紹介された。続いて、花澤博夫講師が木刀基本1～5本目を示範しながら指導上の注意を解説した。その後、<sup>しももろ</sup>下諸 純孝講師より、一斉指導の際の注意点が説明された。

班別に分かれて、木刀基本の課題を克服するための段階的練習が討議され、引き続き、剣道の授業づくりにおける課題の研究協議を行い、1日目を終えた。

## □2日目（2月18日）

防具のない授業例として、岩脇講師より竹刀の持ち方、素振りの指導、下諸講師より打ち方、打たせ方、有田講師より段階的な指導の解説が行われた。打つ方はしっかりと発声をし、打たせる方は、打っている人が正しくまっすぐ打っているかチェックするようにポイントが示された。

続いて、佐藤講師による「リズム剣道」の紹介があり、音楽に合わせて打突練習を行った。リズム剣道は音楽を使うことで、子供たちの興味を引くことに加えて、楽しく反復練習ができ、正しい技能の定着、また個別指導ができるなどのメリットが紹介された。

花澤講師が防具のつけ方について指導を行い、その後、山神講師より基本となる技の段階的な指導について実技を交えて解説が行われた。続いて、藤田講師がごく簡単な試合として、気剣体の一致を意識した判定試合を行った。5人組に分かれて3人の審判はそれぞれ気・剣・体を見ることで、判定をわかりやすくしている。判定試合を行った後は、それぞれどこがよかったのか、どうすればよくなるのかを話し合う時間を設けることが大事であると説明した。

午後は、宮原講師が段階的な指導法から、面抜き胴の指導を行った。岩脇講師が面抜き胴を使ったごく簡単な試合の紹介をし、防具の結束方法にも触れた。最後に指導と評価について、藤田講師が講義を行い、剣道の授業では、技はあくまでも教材であり、技の習得を目指すのではなく、技を通して攻防の展開ができるようになることが目標であると述べた。

閉講式では、軽米講師が講評を、甲斐広樹大分市立滝尾中学校教諭が講師への謝辞を述べ、中倉幸雄大分県学校剣道連盟副会長が主管県挨拶、佐藤講師が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。



『指導書』の活用を説明する軽米講師